

- (3) 防水形外装薄塗材Eは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、(1)(7)による。
- (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
- (ウ) 増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等に、はけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける。
- (エ) 主材塗りは、次による。
- (ア) 基層塗りは、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように均一に塗り付ける。

防水形外装薄塗材E（ゆず肌状、さざ波状・ローラー）工法例

工 程	塗料その他			日本ペイント 商品名	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数
	規格 番号	規格名称	種類			
既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整	4.5.4による。 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整は、4.5.5による。 (コンクリート、モルタル、プラスチック、PCパネル、ALCパネル、押出成形セメント板)					
1 下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 下塗材	—	(1液・水系) ①水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2 増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	(1液・水系) ①DANシリコンセラR 水道水 0~6%	0.5 以上	1
3 主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	①DANシリコンセラR 水道水 0~6%	0.7 以上	1~2
4 主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄塗材E 主材	—	①DANシリコンセラR 水道水 5~10%	0.2 以上	1

* JIS A 6909 防水形外装薄塗材の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909適合仕様となります。)

●下塗材（既存塗膜の状態や下地の種類等により使用できない場合もあります。）

①水性カチオンシーラー（ホワイト）（1液・水系）

①ウルトラシーラーⅢ（透明）（1液・水系）

①浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）

①ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、浸透性シーラー（新）、ファイン
浸透シーラー（透明・ホワイト）を使用してください。

- (4) 外装薄塗材Sは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
- (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
- (ウ) 主材塗りは、(1)(ウ)(a)による。
- (5) 外装厚塗材Cは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
なお、練混ぜ量は、仕上塗材の製造所指定する可使時間内に使い終わる量とする。
- (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
- (ウ) 主材塗りは、次による。
- (ア) 吹付けの場合は、次による。
- ① 基層塗りと模様塗りの2回とする。
 - ② 基層塗りは、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。
 - ③ 模様塗りは、(1)(ウ)(a)による。
 - ④ 凸部処理は、模様塗りの後に、見本塗板と同様の模様になるように、こて又はローラーにより押さえる。
- (イ) こて塗りの場合は、(2)(ウ)(c)による。
- (エ) 上塗材を用いる場合は、上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガンにより塗り付ける。
- (6) 外装厚塗材S i 及び外装厚塗材Eは、次による。
- (ア) 材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。
- (イ) 下塗りは、(1)(イ)による。
- (ウ) 主材塗りは、次による。
- (ア) 吹付けの場合は、(5)(ウ)(a)による。
- (ブ) ローラー塗りの場合は、(1)(ウ)(b)による。
- (シ) こて塗りの場合は、(2)(ウ)(c)による。
- (エ) 上塗りは、(5)(エ)による。